

# SUPERBIKE EXPRESS--5

EXtra, EXpert and EXtreme

ROUND

THE HEROIC RIVALS  
at their several strongholds  
who will win? It is me who gets the honor. 2020



JSB 1000  
ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP  
QUALIFYING PRACTICE  
REPORT & INTERVIEW

## 野左根航汰が決勝レース1でバトルの末に2位 初JSB1000チャンピオンに輝く! 中須賀克行が勝負を制し今季初優勝!!

8月によりやく開幕しながらも、第2戦岡山ラウンドが台風で中止となり、実質全4戦という短期決戦で争われた2020年。コロナ禍の中、イレギュラーなシーズンとなったが、例年と同じく三重県・鈴鹿サーキットで最終戦を迎えた。

今年も木曜日の特別スポーツ走行からレースウィークがスタートし、いずれも好天に恵まれ、ドライコンディションのもとでセッションは進んでいった。

JSB1000クラスは、ここまで野左根航汰がポールtoフィニッシュで6連勝を飾っており、レース1で20位以内でゴールすればシリーズチャンピオンが決まる状況となっていた。野左根としては、勝って決めるのが理想だろう。

公式予選は波乱の展開となった。セッション序盤で、清成龍一がシケインで転倒し赤旗中断。再開されるが、今度は渡辺一馬がデグナーカーブ進入で転倒し、またも赤旗が提示される。Keihin Honda Dream SI Racingの2人が離脱する中、中須賀克行が自己ベストを更新する2分04秒128をマーク。セカンドベストもトップとなり、中須賀がダブルポールポジションを獲得した。野左根も両レースで2番手となりヤマハファクトリーが1-2、3番手にヨシムラの渡辺一樹が続き、フロントロウを確保していた。

予選で転倒を喫した清成と渡辺一馬は、足を痛めていたながら大きなケガはなくレース1に出られた

ものの、2人ともTカー(スペアカー)での出走を余儀なくされていた。

14周で争われたレース1。ポールポジションスタートの中須賀がホールショットを奪い、野左根、水野、清成、渡辺一馬、加賀山就臣、スタートで出遅れた渡辺一樹と続いて行く。オープニングラップのS字コーナー進入では、清成が水野をかわし3番手に浮上。その後方では、渡辺一樹が加賀山をかわすと、S字コーナー2個目で渡辺一馬、ダンロップコーナーで水野をかわすと清成の背後に迫って行く。一方、トップ争いは、130Rで野左根が中須賀をかわしトップに浮上。そのままレースをリードして行く。トップグループは、野左根、中須賀、渡辺一樹の3台が形成。4番手の清成が単独走行となって行き、5番手の水野の背後には加賀山が迫って来る。水野は、前戦のツインリンクもてぎラウンドレース1のアクシデントでメインカーが炎上し廃車となってしまい、今回も一からセットを始めていたが、マシントラブルが続いており、予選になってようやく普通に走れるようになっていた。予選で進めたセットだったため、レースのコンディションには合っておらず思うようにペースを上げられないでいると、渡辺一馬、加賀山にかわされ7番手までポジションを落としてしまう。

レース終盤を迎えトップ争いは、相変わらず野左根、中須賀、渡辺一樹の3台が接近戦を展開してい

たが、12周目のバックストレートで野左根のスリップストリームに入った中須賀に対し、130Rでインを抑えた野左根だったが、中須賀は、うまく立ち上がりでクロスラインを取り前に出て行く。そして残り2周となったところでラストスパートに入る。このスパートに渡辺一樹は、ついて行かず、やや遅れを取ってしまう。逆に野左根は、しっかり反応し中須賀のテールをビタリとマークする。しかし、この日の中須賀にはすきはなく、野左根を勝負所でしっかり抑え、今シーズン初優勝を飾った。野左根は、2位に入りシリーズチャンピオンを決めた。3位に渡辺一樹が入り表彰台の一角を占めた。清成は単独の4位でゴール。5位争いは、レース中にマシンに合わせてアジャストした走りをしたという水野が、12周目の130Rで前に出て、そのままチェッカーフラッグを受けた。6位に渡辺一馬と続き、7位に13周目に加賀山をかわした濱原颯道が入った。加賀山はレース終盤にペースが上がらず8位。9位に前田恵助、10位に関口太郎と続いた。

レース2も中須賀、野左根、渡辺一樹の3台が主導権を握りそうだ。絶対王者の意地を見せたい中須賀、勝って自らに花を添えたい野左根、レース1でのデータを生かして、さらにペースを上げたい渡辺一樹、三者三様の思惑が交錯する2020年シーズン最終戦は、誰が制するのかわか!



レース1/優勝  
レース2/ポールポジション: 2'04.853  
#1 中須賀克行  
YAMAHA FACTORY RACING TEAM

『非常に長い14周でした。レース前は、自分が前に出て引っ張ろうと思っていましたが、野左根選手の調子がよかったですし、新チャンピオンにふさわしいすきのない走りをしていたので後方でプレッシャーをかけていました。そのうちリズムを崩したりするかと思いましたが、しっかりタイヤマネジメントもしていました。前に出てからラスト2周をブッシュしたのですが離すことができませんでしたが、いいバトルができたと思います。(野左根選手は)レース1はチャンピオンを獲得するのが第一でしたし、レース2はノープレッシャーで来ると思う。ボクも持っている力を出し切って、いいレースにして送り出したいですね』

JSB1000 決勝 [Race1] 正式結果表

●予選・決勝[Race1](14周)/10月31日(土):天候:路面/晴・ドライ

Pos	No	Rider	Team
1	1	中須賀 克行	YAMAHA FACTORY RACING TEAM
2	3	野左根 航汰	YAMAHA FACTORY RACING TEAM
3	5	渡辺 一樹	YOSHIMURA SUZUKI MOTUL RACING
4	17	清成 龍一	Keihin Honda Dream SI Racing
5	634	水野 涼	MuSASHi RT HARC-PRO.Honda
6	33	渡辺 一馬	Keihin Honda Dream SI Racing
7	72	濱原 颯道	Honda Dream RT 桜井ホンダ
8	71	加賀山 就臣	Team KAGAYAMA
9	75	前田 恵助	YAMALUBE RACING TEAM
10	44	関口 太郎	SANMEI Team TARO PLUSONE
11	36	岩田 悟	Team ATJ
12	90	秋吉 耕佑	au・kosuke racing
13	87	柳川 明	will raise racingRS-ITOH
14	15	生形 秀之	エスパルスドリームレーシング・ITEC
15	19	中富 伸一	HITMAN RC甲子園ヤマハ
16	13	津田 一磨	BabyFace POWERED by YOSHIMURA
17	28	児玉 勇太	Team Kodama
18	21	今野 由寛	Moto Map SUPPLY
19	30	田尻 悠人	GOSHI Racing
20	92	樋口 耕太	H.L.O RACING
21	42	櫻山 茂昇	信州活性PJ・Team長野&Moderato
***** 以上完走 (規定周回数 10Laps) *****			
		32黒木 玲徳	Honda/GBR1000RR
		25 亀井 雄大	Honda/GBR1000RR-R

Fastest Lap  
2'05.486 (4 / 14) 166.996 km/h #5 渡辺 一樹 / YOSHIMURA SUZUKI MOTUL RACING



Presented by DUNLOP

笠井悠太 (INT) 4戦全勝!  
梶山 采千夏 (NAT) 2勝目!

最終戦鈴鹿の決勝レースは、笠井悠太と安田毅史、そして上原大輝が終盤まで激しいバトルを展開、8周で争われる決勝レースの最終ラップ、安田が再び笠井からトップを奪ったその後ろで上原が痛恨の転倒、2台となったトップ争いはそのままバトルを続け、130Rで先行する安田をシケインでインからかわした笠井が、フィニッシュまで抑えきって歓喜のチェッカー、4戦全勝、3年連続のタイトルに華を添えた。ナショナルでは田中敬秀がタイトルを決めた。



決勝正式結果 (10周/上位10位)

●10月31日(土)予選・決勝 天候:晴 路面/ドライ 出走35台

Pos	No	Cs.	Rider	Team	RaceTime
1	1	1	笠井 悠太	TEAM TEC2 & YSS	20'08.818
2	7	1	安田 毅史	TEAM AGRAS with NOJIMA	20'08.922
3	37	1	中村 龍之介	ENDLESS TEAM SHANTI	20'19.338
4	27	1	石井 千優	千葉北ポケイコース TeamN-PLAN	20'19.410
5	54	N	梶山 采千夏	GOSHI Racing	20'19.736
6	373	N	南 博之	Team 373 TEC2:YSS & J-TRIP	20'23.302
7	95	N	3 福井 宏至	YTR	20'29.362
8	16	N	4 鈴木 悠大	キジマKISSレーシングチーム	20'29.404
9	26	N	5 田中 敬秀	YUJEMSホーム7C+NTR+WAKOS	20'31.497
10	17	N	6 桐石 世奈	Team HIRO&チャレンジフォックス	20'37.064

DUNLOP OFFICIAL TYRE SUPPLIER



名越哲平が今季クラス初ポールポジション獲得!  
「決勝では勝つことだけを考えて必ず恩返ししたい!」



ポールポジション: 2'08.839  
#634 名越 哲平  
MuSASHi RT HARC-PRO

『ここまでずっと高橋裕紀選手にポールポジションを取られていたんですが、前回もでぎでは一騎打ちで勝つことができたので、最終戦は自分の走りをしてポールポジションを取りたいと考えていたので、うれしいですね。金曜日の午後にレースラップを想定したアベレージにトライしたんですが、コンディションにもなかなか合わせられずに、まだそのあたり見えていないですね。今日のデータをしっかり検討して決勝に備えたいと思います。タイトルへのプレッシャーはないので、決勝では勝つことだけを考えて、チームや支えてくださる多くの方に良い結果を見せてシーズンを終わりたいと思います』

ST1000クラスの公式予選は、前回第4戦ツインリンクもてぎの優勝で勢に乗る名越哲平が、シーズン初のポールポジションを獲得した。セッション当初は津田拓也が2分9秒180をマークしてトップにつけていたが、それを名越が4周目にマークした2分8秒839で逆転、トップを奪った。岩戸亮介が9秒395、タイトルに王手の高橋裕紀が9秒422、スポット参戦の伊藤勇樹が9秒628で続いていた。

ポイントリーダーの高橋は、セッション後半を前に

長目のピットイン。残り10分ほどのところでコースに復帰、アタックを開始した。そして9秒318をマーク、ポジションを一つ上げて岩戸を逆転、3番手に浮上した。

その後も残り時間一杯までアタックを続け、最終的には9秒233までタイムを上げるが、順位は変わらず。ポールポジションは名越に決まった。津田、高橋までがフロントロウ。岩戸が4番手、終盤にタイムを上げた渥美心が9秒618で5番手にジャンプアップ、伊藤が6番手でセカンドロウとなった。

**ST 600**  
ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP  
QUALIFYING PRACTICE  
REPORT & INTERVIEW



## 荒川晃大、鈴鹿で2年連続ポールポジション獲得! 「スタートでダッシュを決めて後ろを離したい!」



**ポールポジション: 2'11.068**  
**#54 荒川晃大**  
**MOTOBUM HONDA**

好天に恵まれた鈴鹿サーキット。ST600の予選が始まる頃には気温も上昇し、絶好の ATTACK 日和。その中でまずトップに立ったのが今季3戦で2勝している岡本裕生。タイムは2分11秒232。従来の記録タイムを大きく上回るものだ。2番手には鈴鹿出身、昨年この大会で初優勝を飾った南本宗一郎がつける。

しかし、その後すぐに荒川晃大が11秒068のタイムを叩き出しトップに浮上。その後、このタイムを上回る

ライダーは現れず、昨年の同大会に続き、荒川がポールポジションを獲得した。2番手がポイントリーダーの岡本、3番手にはSRS(鈴鹿レーシングスクール)出身で2018年の同大会で歓喜の初優勝を飾った佐野優人がセッション終了直前に11秒237をマークして入った。南本は11秒420で4番手。長尾健吾が11秒638で5番手、小山知良が11秒779でここまでがセカンドロウとなった。

『2年続けての鈴鹿でポールポジションは嬉しいです。本当はもう少しタイムを上げて11秒の壁を壊したかったですけど、できなかったのが悔しいところです。あとはアベレージタイムとかいろいろ試したいこともあるので、決勝まで時間のある限り進めたいと思います。決勝は、スタートはあまり良くないので、そこを意識してダッシュを決めて1周目をトップで戻って後ろを引き離してポールtoウインだといいな…、そんなイメージで走りたいですね。ペースはみんな大きく変わらないと思いますので、混戦なら気持ちで負けないように頑張ります』

**J-GP3**  
ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP  
QUALIFYING PRACTICE  
REPORT & INTERVIEW

## 村瀬健琉、タイトルへの自信を深めるポールポジション! 「今ボクのできる最高のレースをお見せできればと思います」



**ポールポジション: 2'17.649**  
**#3 村瀬健琉**  
**Team TKR**

朝から晴れ上がった鈴鹿サーキット。その代わりにり気温が下がって、朝一番のJ-GP3の予選セッションはタイヤにとって厳しい状況の中で始まった。

その中でやはり存在感を見せたのが、ポイントリーダーの村瀬健琉。2分19秒235のタイムをマークしてトップ。高杉奈緒子、鈴木大空翔と19秒台で続く。

しかし、その後、村瀬と僅差でタイトルを争う小室

旭が18秒948でトップを奪うが、村瀬もすかさず18秒650でトップを奪還する。

圧巻だったのは、残り3分からの村瀬の最終アタック。18秒571までタイムアップした村瀬は、チェッカー周となる最終ラップに区間ベストを続々更新し、17秒649をマーク!タイトルへの自信を深める今季2度目のポールポジションを獲得した。

『予選では、まず6位以内に入れたい、という感じで臨みました。スリップの取り合いになると思っていたので、最後にうまくタイムが出せたところなんです。ポールポジションは嬉しいですが、今日は今日、明日また気を引き締めてレースに臨みます。目標タイムは17秒でしたが、最後までできそうで、スリップも使える位置にいたので、このタイムが出せました。一発のタイムもそうですが、ウィーク通してのアベレージタイムも悪くないので、今ボクのできる最高のレースをお見せできればと思います』

# MFJ Superbike Final Round MFJ-GP SUPERBIKE RACE in SUZUKA 31st October - 1st November 2020



●予選:天候/晴 路面/ドライ 出走24台  
●決勝[Race2]スタート進行/14:50(16周)

## JSB1000[Race2] 公式予選 セカンドラップタイム 正式結果表

Pos	No.	Name	Team	Machine	2nd Time
1	1	中須賀 克行	YAMAHA FACTORY RACING TEAM	YZF-R1	2'04.853
2	3	野左根 航汰	YAMAHA FACTORY RACING TEAM	YZF-R1	2'05.141
3	5	渡辺 一樹	YOSHIMURA SUZUKI MOTUL RACING	GSX-R1000	2'05.274
4	17	清成 龍一	Keihin Honda Dream SI Racing	CBR1000RR-R	2'05.725
5	33	渡辺 一馬	Keihin Honda Dream SI Racing	CBR1000RR-R	2'05.961
6	634	水野 涼	MuSASHi RT HARC-PRO.Honda	CBR1000RR-R	2'06.040
7	71	加賀山 就臣	Team KAGAYAMA	GSX-R1000	2'06.471
8	72	濱原 颯道	Honda Dream RT 桜井ホンダ	CBR1000RR-R	2'06.485
9	75	前田 恵助	YAMALUBE RACING TEAM	YZF-R1	2'06.646
10	25	亀井 雄大	Honda Suzuka Racing Team	CBR1000RR-R	2'06.883
11	36	岩田 悟	Team ATJ	CBR1000RR-R	2'07.717
12	090	秋吉 耕佑	au+kosuke racing	CBR1000RR-R	2'08.083
13	44	関口 太郎	SANMEI Team TARO PLUSONE	S1000RR	2'08.199
14	15	生形 秀之	エスバルスドリームレーシング・ITEC	GSX-R1000R	2'08.401
15	21	今野 由寛	Moto Map SUPPLY	GSX-R1000R	2'08.862
16	87	柳川 明	will raise racingRS-ITOH	ZX-10RR	2'08.874
17	19	中富 伸一	HITMAN RC甲子園ヤマハ	YZF-R1	2'09.105
18	28	児玉 勇太	Team Kodama	YZF-R1	2'09.757
19	13	津田 一磨	BabyFace POWERED by YOSHIMURA	GSX-R1000R	2'11.212
20	30	田尻 悠人	GOSHI Racing	CBR1000RR	2'12.189
21	32	黒木 玲徳	GOSHI Racing	CBR1000RR	2'12.775
22	92	樋口 耕太	H.L.O RACING	GSX-R1000	2'12.940
23	42	櫻山 茂昇	信州活性PJ+Team長野&Moderato	S1000RR	2'13.573
**** 以上予選通過 ****					
	78	岡田 寛正	HondaブルーヘルメットMSC熊本	CBR1000RR-R	2'14.407

Entry :24 Start :24

Supported by  
**BRIDGESTONE**



●予選:天候/晴 路面/ドライ 出走35台  
●決勝スタート進行/11:00(13周)

Pos	No.	Name	Team	Machine	BestTime
1	54	荒川 晃大	MOTOBUM HONDA	CBR600RR	2'11.068
2	41	岡本 裕生	51ガレージ ニトロレーシング	YZF-R6	2'11.232
3	97	佐野 優人	TEAM VITAL SPIRIT	YZF-R6	2'11.237
4	2	南本 宗一郎	AKENO SPEED・YAMAHA	YZF-R6	2'11.420
5	50	長尾 健吾	NCXXRACING&善光会 TEAMけんけん	YZF-R6	2'11.638
6	1	小山 知良	日本郵便HondaDream TP	CBR600RR	2'11.779
7	98	佐野 勝人	TEAM VITAL SPIRIT	YZF-R6	2'11.935
8	104	國峰 啄磨	TOHO Racing	CBR600RR	2'12.010
9	33	中山 耀介	伊藤レーシング&TEAM SHOTA	YZF-R6	2'12.397
10	10	古山 颯太	OZTRacing with YSP名古屋西	YZF-R6	2'12.670
11	39	阿部 恵太	Webike チームノリツクヤマハ	YZF-R6	2'12.743
12	71	埜口 遥希	SDG Mistresa RT HARC-PRO	CBR600RR	2'12.895
13	341	和田 留佳	KRP三陽工業&RS-ITOH	ZX-6R	2'12.909
14	11	伊達 悠太	BATTLE FACTORY	CBR600RR	2'13.204
15	36	井手 翔太	AKENO SPEED・YAMAHA	YZF-R6	2'13.319
16	38	伊藤 元治	MOTOBUM HONDA	CBR600RR	2'13.413
17	18	横山 尚太	ガレージL8 RACING TEAM・YAMAHA	YZF-R6	2'13.593
18	46	芳賀 涼大	ニトロレーシング	YZF-R6	2'13.622
19	22	長尾 健史	富永総業TEAMけんけんwithBEE	YZF-R6	2'13.679
20	31	鈴木 光来	MOTOBUM HONDA	CBR600RR	2'13.787
21	45	芳賀 瑛大	ニトロレーシング	YZF-R6	2'14.091
22	75	綿貫 舞空	伊藤レーシングBORGカスタム	YZF-R6	2'14.404
23	53	家根谷 大晟	Team MF & Kawasaki	ZX-6R	2'14.465
24	32	名越 公助	TEAM PLUSONE	YZF-R6	2'14.581
25	51	関野 海斗	51ガレージ ニトロレーシング	YZF-R6	2'14.590
26	340	松 克哉	KRP三陽工業&RS-ITOH	ZX-6R	2'14.740
27	49	松岡 玲	伊藤レーシングBORGカスタム	YZF-R6	2'14.851
28	17	田所 隼	Honda Suzuka Racing Team	CBR600RR	2'14.984
29	90	齊藤 魁	テルル・MotoUP	CBR600RR	2'14.986
30	20	船田 俊希	BLUE MAX +加藤建設	YZF-R6	2'15.414
31	44	平野 ルナ	TransMap Racing with ACE CAFE	YZF-R6	2'15.645
32	19	中村 竜也	RS-ITOH&オートボーイ	ZX-6R	2'15.946
33	83	鈴木 翔	BASSA83 K&Tレーシング	ZX-6R	2'16.243
34	40	豊島 智博	RS-ITOH	ZX-6R	2'16.527
35	37	櫻井 賢一	MOTO BUM	CBR600RR	2'18.842

\*\*\*\* 以上予選通過 (2'21.673 - 108%) \*\*\*\*

Entry :35 Start :35



●予選:天候/晴 路面/ドライ 出走28台  
●決勝スタート進行/09:45(13周)

Pos	No.	Name	Team	Machine	BestTime
1	3	村瀬 健琉	Team TKR	NSF250R	2'17.649
2	32	小室 旭	Sunny moto planning AKR	RC250R	2'18.650
3	36	徳留 真紀	マルマエMTR	NSF250R	2'19.079
4	71	成田 彬人	Team P.MU 7C MIKUNI	NSF250R	2'19.149
5	95	村上 俊輝	SDG Mistresa Jr. Team	NSF250R	2'19.269
6	35	古里 太陽	太陽 with BATTLE FACTORY	NSF250R	2'19.323
7	2	鈴木 大空翔	BATTLE FACTORY	NSF250R	2'19.424
8	12	高杉 奈緒子	Team NAKOK KTM	RC250R	2'19.651
9	45	木内 尚汰	S-Speed	NSF250R	2'19.911
10	96	中島 元気	Honda浜松エスカルゴRT	NSF250R	2'20.154
11	43	彌榮 都	Team MARUMAE・Y's	NSF250R	2'20.166
12	72	C 藤田 哲弥	Team P.MU 7C MIKUNI	NSF250R	2'20.899
13	38	C 江澤 伸哉	Team SRS-Moto	NSF250R	2'20.945
14	41	宇井 陽一	41Planning-Team One for All	TR004	2'21.158
15	11	山本 恭裕	チームライフ・ドリーム北九州	NSF250R	2'21.278
16	50	S 高橋 直輝	ライダーズサロン横浜	NSF250R	2'21.463
17	33	C 仲村 瑛冬	犬の乳酸菌.jp/プリミティブRT	NSF250R	2'21.522
18	39	金子 寛	RG NIWA with AutoMac 翔天恭	NSF250R	2'21.586
19	70	山田 尚輝	SDG Mistresa Jr. Team	NSF250R	2'21.745
20	54	S 堀井 颯大	Team SRS-Moto	NSF250R	2'22.136
21	52	S 中嶋 昂士	Team BATTLE	NSF250R	2'22.258
22	8	岡崎 静夏	RT YOLO SARD&ばわあくらふと	NSF250R	2'22.404
23	53	S 山本 航	ライダーズサロン横浜	NSF250R	2'22.859
24	28	野澤 秀典	ノザワレーシングファミリー	NSF250R	2'23.287
25	55	S 上江洲 憲要	ライダーズサロン横浜☆ペンスケ	NSF250R	2'23.301
26	20	村田 憲彦	TEAM SAMURAI	NSF250R	2'24.010
27	56	S 田中 風如	WJ-FACTORY	NSF250R	2'25.664
**** 以上予選通過 (2'29.536 - 108%) ****					
	51	S 渡邊 虎太郎	Team SRS-Moto	NSF250R	

C=GP3チャレンジ S=特別参戦枠

Entry :28 Start :28

## DUNLOP OFFICIAL TYRE SUPPLIER



●予選:天候/晴 路面/ドライ 出走32台  
●決勝スタート進行/13:40(11周)

Pos	No.	Name	Team	Machine	BestTime
1	634	名越 哲平	MuSASHi RT HARC-PRO	CBR1000RR-R	2'08.839
2	85	津田 拓也	WestPower・S-SPORTS・SUZUKI	GSX-R1000R	2'09.180
3	23	高橋 裕紀	日本郵便HondaDream TP	CBR1000RR-R	2'09.223
4	64	岩戸 亮介	PTT Vamos Racing with A-TECH	ZX-10RR	2'09.395
5	95	瀧美 心	TONE RT SYNCEDGE4413 BMW	S1000RR	2'09.618
6	76	伊藤 勇樹	伊藤レーシングEDPASヤマハ	YZF-R1M	2'09.628
7	71	榎戸 育寛	SDG Mistresa RT HARC-PRO	CBR1000RR-R	2'09.924
8	17	作本 輝介	Keihin Honda Dream SIR	CBR1000RR-R	2'09.951
9	52	山口 辰也	Team T2y with NOBLESSE FAMILY	CBR1000RR-R	2'10.129
10	33	藤田 拓哉	SpeedheartDOGFIGHTRACINGYAMAHA	YZF-R1	2'10.658
11	87	清末 尚樹	TEAM WITH 87 KYUSUY	ZX-10RR	2'10.693
12	46	星野 知也	TONE RT SYNCEDGE4413 BMW	S1000RR	2'10.844
13	104	國川 浩道	TOHO Racing	CBR1000RR-R	2'11.090
14	14	伊藤和輝	will raise racingRS-ITOH	ZX-10RR	2'11.387
15	12	長谷川 聖	Team KAGAYAMA powerbyYOSHIMURA	GSX-R1000	2'11.820
16	26	谷本 音紅郎	SpeedheartDOGFIGHTRACINGYAMAHA	YZF-R1	2'11.834
17	51	寺本 幸司	TERAMOTO@J-TRIP Racing	GSX-R1000	2'11.895
18	5	中村 修一郎	B-LINE Racing with TKm	ZX-10RR	2'12.121
19	13	柴田 義将	OGURA CLUTCH with RIDE IN	YZF-R1	2'12.402
20	16	松川 泰宏	MOTO BUM・SAI	CBR1000RR-R	2'12.689
21	57	奥田 教介	Team MF & Kawasaki	ZX-10RR	2'12.781
22	90	吉田 光弘	Honda緑陽会熊本レーシング	CBR1000RR-R	2'13.160
23	22	岸田 尊隆	SPEED SHOP FUSE	CBR1000RR-R	2'14.274
24	18	上林 隆洸	浜松チームタイタン	GSX-R1000R	2'14.670
25	38	森本 誠一朗	Team38 PS-K	ZX-10RR	2'15.006
26	78	森健祐	HondaブルーヘルメットMSC	CBR1000RR-R	2'15.210
27	42	武田 教馬	浜松チームタイタン	GSX-R1000R	2'15.283
28	88	吉広 光	CLUBNEXT&MOTOBUM	CBR1000RR-R	2'15.415
29	6	小山 葵	AKENO SPEED	YZF-R1	2'16.367
30	50	大須賀 俊晴	DOG HOUSE+速心+STファクトリー	GSX-R1000R	2'17.257
31	15	D.Zechariah	Odakaihatsu aprilia + TOHO	aprilia/RSV4	2'17.450
32	98	中澤 孝之	SpeedheartDOGFIGHTRACINGYAMAHA	YZF-R1	2'17.784

\*\*\*\* 以上予選通過 (2'19.407 - 108%) \*\*\*\*

Entry :32 Start :32

## INFORMATION



全日本ロードレース選手権全戦・全クラス(JSB1000/ST1000/ST600/J-GP3 & MFJカップJP250)の予選・決勝をライブ配信! 迫力ある映像をお届けします。※通信環境によりディレイ配信となる場合もあります。

## インターネットライブ & 動画配信も充実!!



You Tube「MFJ SUPERBIKEオフィシャルチャンネル」では、予選・決勝直後のライダーインタビューを中心に、全日本ロードレースの迫力を動画にて配信!



国内最高峰のJSB1000クラスに加え、新設されたST1000クラスを中心に日本のトップライダー達の熱いバトルの模様などをお届けします。また、新車インプレッション等の最新二輪情報満載のバイク番組です。

## 毎週最終土曜21:30~22:00

詳しくはBS12(トゥエルビ)  
<https://www.twelvlv.co.jp/>